

平成29年度 横浜市立港南台第三小学校 「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。港南台第三小学校では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 港南台第三小学校は、JR 根岸線 港南台駅を最寄り駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から直線距離で 700mと近い位置関係にあり、駅には徒歩や自転車を使う子どもが多い地域です。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②バスの乗り方に関する紙芝居及び運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かた知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成 29 年 9 月 15 日(金)
第 1～2 校時 (8:35～10:15)

【対象】港南台第三小学校
4 年生 (50 人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



校庭に並ぶ 2 台のバス



座学①



座学②



バスの乗り方に関する紙芝居



バスを使った体験学習



運転手さんのお話し

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知りたい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 駅に近い地域のため、バスを使う子どもは半数程度でしたが、例えば塾に行くとき、習い事に行くときなど、バスを使って子どもだけでお出かけすることもあるようです。
- 成長していく過程の中で「**便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、運転席に座ってバスの死角について学んだり、紙芝居を通じてバス車内でのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。



運転席での死角体験

運転席に座って、運転手から見えないバスの「死角」を体験しました。子どもたちの予想以上に、周りが見えにくかったようで、驚いていました。



車いす体験

車いすに人を乗せてバスのスロープを登ったり、降りたりするのは、とても力がかかることです。体験後の子どもたちは、大変だった、降りるときに怖かった、と話していました。